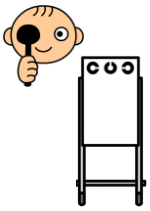
目の相談室　のびのび



福島県立視覚支援学校
地域支援センター
令和元.9.3　No. 2

幾分暑さも和らぎ、虫の鳴き声とともに秋の気配が感じられる今日この頃となってまいりました。さて、今回の目の相談室だより「のびのび」では、のびのび教室保護者勉強会やのびのび教室サポートクラブのお知らせをいたします。また、お子さんとかかわる時に大切にしたいことについて、長年のびのび教室に携わってきた本校教員の記事を掲載いたします。ご一読いただき、今後の参考になれば幸いです。

のびのび教室保護者勉強会

歩行などの初心者向け体験講座です。ぜひご参加下さい。

勉強会の日の教室は、１０：００～１３：２０の開催です。１回のみの参加も可能です。参加される方は、昼食をお持ち下さい。

日にち	内　　容	
９月１７日（火）	歩行のいろは①	「手引きの仕方～幼児編～」
１０月２９日（火）	歩行のいろは②	「室内歩行」

※ 今年度はあと２回（１月２８日、２月１８日）開催を予定しています。参加申し込みは、１週間前までに「地域支援センター目の相談室のびのび」までお申し込み下さい。

のびのび教室サポートクラブについて

本校の担当者が各地域に出向いて行う「サテライト教室的相談会」です。

対　象　見えにくさのある乳幼児、児童生徒や成人の方、保護者、ご家族、指導・支援にかかわる先生方、関係者の方

時　間　１４：００～１５：３０
※参加者数によっては時間が前後することがあります。

相談内容　視機能評価、補助具の選定及び使い方の指導等、拡大教科書の文字の選定に関すること、点字の指導、歩行指導、あそびや学習、進路や就労に関すること等

【第２・３回のびのび教室サポートクラブ】

県北地区	１１日２６日（火）	福島市保健福祉センター
県中県南地区	１０月２４日（木）	須賀川市教育研修センター
会津地区	１２月　５日（木）	会津若松合同庁舎
いわき地区	１０月１０日（木） １月１６日（木）	いわき市総合教育センター
相双地区	９月２６日（木） １２月１２日（木）	鹿島保健センター

※　参加申し込みを希望される場合は、１週間前までに「地域支援センター目の相談室のびのび」までお申し込み下さい。

「自分から」を支えていくために

地域支援センター　菅野孝一

見えない、見えにくさがあることから様々な制約が生じている子どもたちが、安心して「自分から」という思いを持ち、体全体を、手や目を使って楽しく遊ぶことを通して、物を扱うことが上手になったり、身の回りのいろいろな物や事柄を理解したり、ことばを獲得していったりすることは、乳幼児期においてとても大切なことと考えます。この「自分から」が、子どもが身につけたものを本当の意味で自分の力としていく上でとても大切なキーワードとなってくると思っています。そんな思いを持ちながら、これまで「のびのび教室」の子どもたちも含めて、いろいろな子どもたちとかかわる中で、私なりに考えてきたことを少しだけ文字にさせていただこうと思います。

子どもが示す行動の意味を考えながら、丁寧に応じていく

スキンシップ・ふれ合いを大切にしながら、子どもが何を感じ考えているのか、動きを、表情を見て、声やことばを聞き、注意深く思いを探っていく。そして、その思いに応えていく。

子どもの興味関心を捉え、一緒に遊ぶ。その中で細かく丁寧なやりとりを

子どもの興味・関心が向かう対象を捉え（抱っこや揺さぶり、手遊びなどの触れあい遊び。音や音楽・光の出る、振動する玩具。遊具遊びなど）一緒に遊ぶ。丁寧なかかわりに心がけながら、子どもとの双方向的なやりとりを作り出していく。そうすることで、子どもはかかわり手に対して、その思いを活発に表現するようになる。やりとりは発展し、活動が楽しく展開していく。活動が楽しければ、またやってみたいという思いが生まれていく。

意図的な環境作りと誘いかけ、そして適切なガイドを

子どもの興味・関心が向かうような意図的な環境作り（わかりやすい物の配置）と「自分から」を意識しながらの程よい誘いかけとガイドが必要。ガイドは、身の回りの処理や玩具等での遊び方などについても、子どもの理解をたすける上で欠かせないものであるが、一方では「手のかけすぎ」が子どもに受け身で依存的な傾向を高めてしまうこともある。常にどのようなガイドが適切であるかを見極めつつかかわっていく必要がある。そこで必要なのが、子どもがガイドを受けることを嫌がることのないような関係を築いておくことである。

活動にどう誘い、どう広げるか、そして一緒に活動していく

まず、かかわり手がやって見せたり、その場の雰囲気や状況を言葉で伝えたりしながら、活動への誘いかけをしつつ、子どもの様子を見ていく。子どもからやってみようという動きが見られたら、一緒に活動していく。活動している子どもが楽しんでいるか、自分で考え、選び、決めて、「自分から」取り組むという場面が作られているか等の視点を持ちながらかかわっていく。わかりやすく、取り組みやすい活動を準備することで、やってみようと思える状況を整えていく。誘いかけも繰り返しおこなっていくことで理解につながることもある。子どもの様子（納得や了解）とタイミングを見極めながら、押したり引いたりの誘いかけをじっくりしていくことが大切である。

実際の体験を大切に、そしてゆとりを持って

子どもがものごとを理解する際の触覚を中心とした学習や見えにくさを抱えながらの学習は、実際の体験を重ねることが需要となっていくと思う。しかし、経験や体験には、戸惑いや不安がつきまとうことも多い。やみくもに、経験させれば良いというものではなく、子どもが興味・関心を示し「自分から」取り組んでいくことにより、自分の世界を広げていけるものかどうかを考えていくことが重要。見て分かることを「触ることを中心に分かろうとする」「見えにくい中で物事を理解していこうとする」には、かなりの時間が必要、これには集中と根気がいる。かかわり手としては、子どもの「自分から」を支えるために、ゆとりを持って「待つ」「見守る」ことが重要である。いずれにしても、実際の体験を重ねて理解することの重要性は限りなく大きい。

これらのことに心がけていきたいと思いつつも、なかなか思うようにいかないことが多かったなあと思います。どうかかわっていけばよいのかは、何かの本に書いてあるものも参考にはなりますが、実際に子どもたちとかかわる中で、子どもたちと一緒に見つけていくものなのかと思います。子どもたちの「自分から」を支えるための学びを続けなければと思う日々です。

地域支援センター　目の相談室　のびのび

相談専用　TEL　080－7347－3908　mail　shien-gr@fcs.ed.jp
〒960－8002　福島市森合町6－34
※地域支援センターは県立視覚支援学校に設置されています。
学校　TEL　024－534－2574　　FAX　024－533－2470
ホームページ　https://fukushima-sb.fcs.ed.jp